



上之坊だより

平成29年1月16日
第75号
福山市大門町大門325
(084) 941-1031

弘法大師聖語抄

こうぼうだいしせいごしょう

法は人に資て弘まり 人は法を待つて昇る

人法一躰にして別異なるを得ず。

「教えを弘めるものは人であり、人は教えによって向上をするものである。人と教えとは一体であって別のものではない。」とお書きになっている。

今ひとが人として生きることは結構むずかしい。自分のことしか考えられない人が増えてきて、人付き合いの苦手な人が増え、世の風潮として他人のことに無関心になっていくようである。

人々が嘗々と歴史の中で築いてきた智恵（他人への思いやりや、困難を乗り越えていくとする勇氣）が失われたならば、文明そのものが崩壊をしてしまうだろう。

今に生きるわれわれが教えを伝承できなければ、自分の欲望だけが闊歩する情けのない乱世の世界となつてゆくと思う。今その危機の時代がひたひたと迫っているのかもしれない。

高野山へ団参

高野山の参拝は五月十一日〜十二日の予定で、料金は三万二千元程度です。一日目京都市内の寺院に参拝、夕方高野山に上り、宿坊に一泊をして二日目に山内を回ります。団参ですので個人で行けない所も参拝します。四月初旬に行程表ができますのでお問い合わせください。

大般若経写経のご案内

大般若経の写経用紙が寺にあります。大般若の写経をご希望の方はご連絡をお願いします。写経された大般若経は多宝塔に奉納をいたします。製本代として五千円の奉納をお願いします。

真言宗の基礎知識（その三十）

（弘法大師）

お大師様四十五歳の時からこの高野山での道場作りが始まりました。その最初に行う儀式が「結界」（けっかい）と呼ばれるものの設定です。結界とは、俗世間と、修行をし瞑想を行う場所とを分け、明確に線を引くことを指します。高野山の場合は七里結界と言って、高野山を中心に東西と南北にそれぞれ七里の境界を設け、その中を聖域として俗世間から遮断をして、仏の浄土であり祖靈の集まる場所とされました。そしてこの聖域の中ではいくつかの禁止行為が設けられます。その中には高野山の場合、猫や鶏を飼ってはいけないというものもありました。犬に導かれてお大師様は高野山に上がったと言われ、伝えにもあり、高野山では犬が神の使いであるといわれています。お寺やお宮によってその歴史の中で登場する動物は違っており、それぞれが開創以来の歴史を物語っているのです。ちなみに、信貴山では寅が、奈良の春日大社や宮島では鹿が、比叡山では猿が、鳥取の大山では狼が大切にされています。

時代の転換期

今日本では明治大正昭和平成という元号で動いてきた歴史と、西暦〇〇年といわれる年号の二つの呼び方が共存している。今まで生年月日を聞かれたときは元号で答える人が多かったが、若い人では西暦で答える人も増えてきたみたいだ。歴史や伝統を重ねてきた世の中の仕組みが変わり、今までの価値観だけでは通用しない時代がやって来ているのかもしれない。それでも私たちの周りにはまだまだ多くの伝統や習慣が生活に根ざしている。捨てるものは決して多くない。平成の元号の次の時代にも大切に持っていこうと思う。

上之坊總代の変更

引野町古地の總代が変更になりました。

山広幸夫氏が死去され協議の結果、山広晴彦氏が就任されました。山広幸夫さんには長い間、總代をお勤めいただき、誠にありがとうございました。

総代会・世話方会の案内

一月二八日午後一時半より總代会を、三時半より世話方会を開催いたします。

役員の方はお集まりください。

土砂加持お供えご啓名

上之坊奥之院付近からの工事

上之坊北庭から多宝塔までの西擁壁の石積に続いて、昨年六月の豪雨の時に崩れた奥之院右側の擁壁の修繕と石積が完了しました。

十一月に行われた総代会で、上之坊奥之院の左方からユギ塔に至る別の通路をつける工事とユギ塔の補修を行う事が決まりました。

一月下旬より奥之院の標高を水平に南方向に向かつて通路をつけ、工作機械がユギ塔付近まで登ることができるようにと考えております。

また、三月以降でユギ塔を現在の規格をほぼ踏襲しながら鑑賞に堪えられるよう補修と改良を行い、併せて小川安六氏の胸像やベンチなどの設置を含めた周辺整備を今年中の完成を目標に進めてまいります。

なお費用については、通路(道)の造成は大森工務店にお願いをして進めることとし、ユギ塔の修繕についても大森社長と相談をしながら、以前の組み立てをした方法で材料代と工賃費用を中心に安価に施工したいと考えております。

ありがとうございました。

厄除け星祭り 二月四日(土曜) 午後一時半より

人に良い年と悪い年があるのは、その人が持つて生まれた星とめぐり来る星との位置と関係によつて起こると言われています。

星祭りとは年の節目である節分の頃に、その年の当たりの星を奉つて、悪い位置の星の人には悪事や災難を免れるように、また良い位置の星の人には一層良くなるようにと祈る行事で、真言宗では千三百年を越える昔から続いている行事です。

上之坊では、二月四日(土)午後一時半より護摩(ごま)をたいて、節分の厄除けの大祈願をいたします。当日は豆まきや福引も予定しておりますので、ご家族やお知り合いなど、お誘いあわせてのお参りをお待ちしております。なお「おふだ」もご希望の方は前日までにお申し込みください。お一人につき三百円です。

また、厄年などで特に特別のおふだをご希望の方には七百円の金札 千五百円の小木札 三千円の大木札の三種類があります。

今年の厄年は、数え年で、男性は平成五年生まれの二十五歳 昭和五十一年生まれの四十二歳 昭和三十二年生まれの六十一歳と、女性は平成十一年生まれの十九歳 昭和六十年生まれの三十三歳 昭和三十二年生まれの六十一歳です。特に男性の四十二歳と女性の三十三歳は大厄と言ひ、特に用心を要する時期です。またその前後の年を前厄後厄と言ひます。

平成二十九年年忌表

- 一回忌 平成二八年
- 三回忌 平成二七年
- 七回忌 平成二三年
- 十三回忌 平成十七年
- 十七回忌 平成十三年
- 二五回忌 平成五年
- 三三回忌 昭和六十年
- 五十回忌 昭和四三年
- 百回忌 大正七年

今年の該当の方は本堂正面に掲示しております。